

平成30年度 事務事業評価シート

事務事業名		動物愛護管理				所管	健康部 生活衛生課			
事務事業の概要	行政計画	事業NO.	169	計画事業名	動物愛護と適正管理		事業の開始・終了年度			
	長期総合計画体系	[基本目標] Ⅲ-1. 健康づくりと、自立生活を支える基盤づくり					[事業開始] 平成10年度			
		[小 柱] (3)安全で健康な生活環境の確保					[終了予定] - 年度			
		[施策] ②生活環境衛生の確保								
	根拠法令等	その他		[法令等名]	なし					
	事業対象	直接の対象 : 一般区民、化製場及び動物資原料運搬業営業者 最終的な対象 : 一般区民								
	事業目的	愛護動物による周辺への迷惑を防止するとともに、動物の愛護と適正管理を推進し、動物を通じた心豊かな社会を築く。								
事業内容 [29年度]	(1)化製場等及び動物資原料運搬業の営業許可等 (2)家庭動物等の適正仕様の普及啓発及び苦情相談対応 (3)動物愛護週間中央行事「動物愛護フェスティバル」を環境省、東京都とともに主催 (4)適正飼養講習会の開催(犬のしつけ教室、地域猫講習会、終生飼養講習会等) (5)飼い主のいない猫対策(地域猫活動の支援)									
委託の有無	一部委託		委託内容	犬のしつけ教室実施委託						
補助金の有無	都									
事務事業の実績	種 別	指標の名称		単位	31年度 目標値	27年度 実績	28年度 実績	29年度 実績 目標値 達成率		
	活動指標	犬の適正飼養講習回数		回	9	9	9	9	9	100.0%
		猫の不妊去勢助成頭数		頭	350	457	389	292	400	73.0%
	成果指標	家庭動物等の苦情・相談件数		件	150以下	167	92	90	150以下	-
		地域猫ボランティア登録者数		人	420	346	375	406	360	112.8%
	決算額 (単位:千円)					27年度		28年度		29年度
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)				5,341		4,779		4,779
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)				10,619		12,484		12,716
		その他のコスト(扶助費・補助費など)				747		781		1,774
		総経費				4,595		3,999		3,091
財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)				15,961		17,264		17,581	
	その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)				67		55		77	
	一般財源(区負担額)				1,087		2,041		1,594	
前回評価から29年度に改善した事項	一般社団法人主催で、東京都動物愛護推進員が中心となって開催した動物愛護イベント「すまいるフェスin台東区」を後援し、保護犬の譲渡推進事業の普及啓発の新たな機会を設けた。									
評価の視点	評価	評価の理由								
	必要性	3	犬のしつけ教室は、新たに犬を飼い始める人や問題行動で悩む飼い主からの需要がある。飼い主のいない猫対策は、事業の成果が表れているが、現状を維持するためには今後も必要な事業である。							
	効率性	3	犬のしつけ教室の募集については、動物病院にも協力を仰ぎ、広く周知を図っている。また地域猫活動については、保健所で開催する講習会だけではなく、町会役員会等へ出向き、説明会を地域で開催しており、活動への理解が進んでいる。							
	手段の適切性	3	犬のしつけ教室は、飼い主のマナー向上と適正飼養の推進だけでなく、動物の災害対策としても有効である。飼い主のいない猫対策は、地域猫ボランティアを対象に毎年講習会を開催している。行政が廉価に実施・支援することでモラルの底上げを促進し、地域猫活動の公共性が担保されている。							
目的達成度	4	家庭動物等の苦情・相談件数、地域猫ボランティア登録者数共に、目標を達成した。								
[総合評価] ※上記4つの視点を踏まえ、事業全体を評価。区民生活への影響を十分考慮すること。						今後の方向性				
飼い主のいない猫対策は、事業の成果が表れ猫が減少し、不妊去勢手術助成頭数が減少した。猫に関する苦情相談件数は若干増加したため、更なる区民の住環境衛生向上のため、今後も継続して対策する必要がある。また、犬の飼い主のマナー啓発等については、講習会の内容や啓発物の見直しを行い、引き続き飼い主のマナー向上と適正飼養の普及啓発を推進していく。						維持		拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了		